

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0492600069		
法人名	社会福祉法人 功寿会		
事業所名	グループホーム「七ヶ浜桜の家」	ユニット名	さざなみ
所在地	宮城県宮城郡七ヶ浜町東宮浜字要害38-15		
自己評価作成日	平成 30 年 12 月 30 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成31年 1月31日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑顔・自由・思いやり」を介護理念に掲げ、入居者一人ひとりの思いを大切に生活の場面場面で自己選択自己決定をしながら職員と共に入居者主体の生活を送って頂けるように支援している。また今年度は開所2年目で初めての看取りを経験し、医療機関とご家族と事業所の連携や、職員の情報共有や現状把握の大切さ、人の命の尊さなど、たくさんのごことを学ばせて頂いている。  
私たちは町唯一のグループホームという責務を強く感じ、認知症への理解を広げていく活動にさらに力を入れている。地域の皆さんや他事業所との交流も活発に行い、「要害の桜の家」として地域に溶け込み開かれた事業所になれるよう努力している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

七ヶ浜町で初めてのグループホームとして行政の理解を得て、説明会や個別訪問を重ね、開設した。交流室でのカフェや認知症講座を開催するなど地域との共生を積極的に行っている。理念に基づき毎年の行動指針を定め、自分の思いで自由に暮らせる支援をしている。職員を各ユニットに固定しない勤務とし、全ての入居者との馴染みの関係作りを深め、外出などで柔軟に対応している。地域交流で知り合ったボランティア団体や運営推進会議メンバーの協力で芋煮会や防災訓練を実施し、地域住民が参加している。誕生会、月見会などの季節ごと行事に加え、ボランティアなどの協力を得た日々の楽しみ事実施への工夫をお願いしたい。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム「七ヶ浜桜の家」)「ユニット名 さざなみ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所の時に自分たちで決めた介護理念は、現在も毎日ミーティングで唱和している。また、行動指針は毎年話し合いによって作り変え、迷ったときの道しるべとして振り返るように心掛けている。	開設時、職員全員で決めた「笑顔、自由、思いやり」の介護理念に基づき、毎年の行動方針を設定している。散歩、買い物など入居者が笑顔で、自分の思いで自由に過ごせるケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元のボランティアの方にカフェを手伝って頂いている。観桜会や芋煮会に地域の皆さんが参加したり、地区の夏祭りに入居者と職員が参加して、顔の見える関係作りに力を入れている。	町内会に加入し、敬老会や夏祭り等地域行事に積極的に参加している。各家庭を訪問しホーム主催の芋煮会へ参加依頼し、約60名の参加があった。カフェや日々の散歩など着実に地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを開催している。また、地域包括からの依頼で認知症サポーター養成講座の講師を務め、町内各所で認知症への理解を深める活動をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催し、自分たちの取り組み内容の報告や意見交換をしている。頂いた意見はなるべく早く実施できるように努めている。	区長、民生委員、地域包括職員、家族代表、ボランティア会員等が参加し2カ月毎開催している。行事に関する意見や避難経路の助言、不審者侵入対策、AED設置などの意見がでている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居申し込み状況や、入居者の暮らしの様子、課題や気になっていることなどを役場地域包括へ随時相談及び報告し、緊密な協力関係を築く努力をしている。	入居費用の支払方法について相談し、「まもりーぶ」利用につなげたり、入居者状況、空室等について役場と情報交換するなど顔の見える関係づくりを行っている。地域の福祉事業所連絡会議などに参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回の身体拘束に関する勉強会や3ヶ月ごとの身体拘束適正化委員会を開催し、職員同士の振り返りの場を設けている。玄関は夜間のみ施錠し、自由な出入りをしていただいている。	身体拘束等適正化指針を作成し、適正化委員会を年3回、研修会を年2回定期に開催している。研修では、「今行くよ」「一緒に行きましょう」など断らない言葉かけを話し合い、職員同士で注意し合っている。近隣との連絡体制もできている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員参加で年に2回虐待防止に関する勉強会を行っている。又、職員間で声を掛け合い不適切ケアがないような風土作りに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会をしているが理解出来てない職員も多い。ご家族からの経済的虐待の可能性がある入居者について関係者と話し合い対応したケースがある。さらに学びを深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間を設け入居される方やそのご家族様が納得いくよう説明をし納得された上入居されている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、アンケート実施と家族会開催、面会時には声を掛け会話を交わすように努めている。入居者には信頼関係の構築と自分の要望を言える環境づくりを心掛けている。	家族会を年2回開催し行事内容、費用などで意見を聞き反映している。居室の清潔保持の意見があり、職員が入居者と一緒に行うなど対応している。自宅に行きたいなどの要望に職員配置を工夫し応えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談や会議等で職員の意見を聞く機会を設けている。又、何かあればその都度相談が出来る環境が整っている。	毎月の全体会議や年2回の職員の自己評価を基にした面談で、研修、資格希望や運営への意見を聞き、反映している。浴槽へ安全に入れる踏み台や手すり設置、柔らかく調理できる圧力鍋の購入をした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と代表者が個別面談し、一人ずつ話をする機会を設けている。また、積極的に外部研修に参加したり資格取得後に手当がつくなど、向上心が持てる仕組みが出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの実力に合う外部研修に積極的に参加し学べる機会を提供している。また、内部研修は毎月行い、全員が知っておくべき事項について共有できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員の多くが町内の他事業所が集まる勉強会や研修会に積極的に参加できるようにしている。相互訪問は今後力を入れていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前になるべく多くの情報を集めること、ご本人とたくさん関わってご本人の声なき声を聞き、早い段階で安心して暮らしていただけるように心を砕いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族がこれまで苦勞して介護してきたことや、事業所に望むこと、ご本人にどのような暮らしを送って欲しいかなど、多くの時間を割いて話を聞き、信頼関係が構築できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の必要な支援は何か、またご家族様の要望は実現できるものかなど、カンファレンスで話し合い対応を決めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側とされる側ではなく、共に暮らす仲間リビングパートナーとしての関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事に参加して頂くほか、外出したり自室で水入らずの時間を過ごして頂いている。また、外来受診はなるべくご家族に来て頂き、事業所に任せっぱなしにならないように配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	カフェが昔なじみの人との交流の場になっていたり、近所に住む同級生と散歩中におしゃべりしたり、塩竈周辺をドライブしたりしてなじみの関係を大切にする取り組みを行っている。	知人などへの年賀状作成の手伝いなど馴染みの人との付き合いが続けられる支援をしている。利用していた通所事業所への踊り見学、麻雀をしに出かけるなど本人が馴染みの行きたい所への同行支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を大切にして、お互いに思いやりながら過ごせるように配慮している。入居者が他の入居者のトイレ誘導を行ったり、入居者間で相談して行動していることも多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後でも、気軽にご連絡いただいてもかまわない事をお伝えし、いつでも相談や支援を行える態勢を整えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の話に耳を傾け、困っていることや望む暮らしのあり方は何かなど、声なき声に心を寄せるように努力している。	不安そうなくさが見られる際にはひとりにはせず寄り添い、思いを聞き出している。家に帰りたいと外に出た場合には制止せず、本人が落ち着くまで職員が同行する等、思いに応えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やその方に関係する事業所・地域包括などからの情報収集と、ご本人の口から語られる言葉を重要視して、今までの経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの入居者について、共に暮らす中で見えてくる暮らしの形や性格・習慣・能力などを把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを元に入居者に必要な支援をプランにしている。ご家族からは要望を伺い、ご本人の様子を見ながら現状に即したプラン作成を心掛けている。	記録はタブレットとノートを併用して行い、共有している。モニタリングを毎月行い、全体会議で検討し、状態変化がある際は都度プランを見直している。家族要望でかゆみのある方の薬を貼り薬から塗り薬に変えた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員によって介護記録の内容に差がある。申し送りのときに気づきなどの情報共有ができるように配慮しているがまだ出来ないことが多い。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人と家族の状況を検討し、常に柔軟な発想で支援するよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方に行事に参加して頂いたり、ご近所にいる同級生とお話をしたり、顔なじみのボランティアの方と手紙を書いたりして、より普通の暮らしが送れるような工夫をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人と家族の希望を最優先にして、今までのかかりつけ医に通院している方と仙台往診クリニックを主治医にしているがいる。	かかりつけ医には家族が同行し、結果を聞いている。協力医院の往診クリニックを月2回利用している入居者が多い。受診結果はタブレットの医療欄に入力し共有している。毎週、訪問看護師の来訪がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内看護師はもちろんのこと、訪問看護師や法人内他事業所の看護師に相談し、一人ひとりの入居者にとって最善の対応が出来るように配慮している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	1年間で入院した事例はないが、入退院に伴う連携の準備は出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に話し合う時間を設け意向の確認をしているが、必要なときはタイミングを見て再度意向の確認や話し合いの場を設けている。	重度化及び看取り指針を家族に説明している。往診クリニック医師を講師に職員は勉強会を行っている。今年はホームで初めて3名の看取りを行い、家族の意向、医師の判断のもと、それぞれの状況に対応した支援を行った。入居者、職員のケアも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回全職員が講習を受けているが、実践力はまだ身につけていないと感じている。いざという時のために今後も繰り返し訓練を行う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は地域住民、消防団、消防署と合同で総合防災訓練を実施し協力体制構築の第1歩を踏み出したところである。また、素早く正確に避難誘導が出来るよう毎月訓練を重ねている。	夜間想定を含む避難訓練を入居者も参加し、毎月行っている。目標達成項目の住民参加訓練を地域へ呼びかけ、消防署、消防団5名、地域12名が参加し実施した。運営推進会議で訓練方法の課題が出された。	地域の理解があり、避難訓練に参加する4住民に役割を持ってもらうなど、定着化を期待する。運営推進会議で出された火元を変えた避難訓練の避難路の検討もお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人として尊重され、一人ひとりに合った言葉の選び方をしている。馴れ合いにならずに、その人の尊厳を大切にしている。	入居者には名前で呼びかけている。おやつなどは押し付けず、選んで貰えるようにしている。失禁が見られた際には「お茶をこぼしたので拭きましょう」などの声がけで対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の言葉や声なき声に心を寄せ、話しやすい環境を作り、今その時の思いや希望を表せるような雰囲気作りをし自己決定出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	遅く起きたり、寝る前に入浴したり、何が食べたいとかどこへ行きたいなどの要望を出来る限り実現できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや爪きり、衣類の調整などは声を掛け出来ないところを手伝う形で支援している。なじみの美容室を定期的にご利用したり、訪問カットを利用したりして、常にこざっぱりとしていられるように配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや後片付けは入居者と共に行っている。またキッチンが見えるので食事の時間が近いことも五感で感じていただいている。週1回のお好みメニューの日は何を食べるか皆で話し合い一緒に買物している。	献立は本部が作成し、食材の下ごしらえや片付け、食器洗いなどを入居者が行っている。状態に合わせて、おかゆ提供など配慮している。お好み食を週1回行い、食材の買い物など入居者と一緒に出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士の作った献立を元に好き嫌いや食べる能力を見極め、一人ひとりに合った食形態で提供している。食べたいものをあきらめなくてもいいように能力に合わせて安全に食べられる工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きを促しているがご自分の意志が固くやらない方も多い。又、定期的に歯科医の訪問診療と口腔ケアが利用できるが、意志が固くやらない方もいる。口腔ケアは課題が多いと感じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居時は自立していたがだんだんと失敗する方が増えてきたので、ご本人の自尊心を傷つけないように配慮しながら、排泄の自立に向けてお手伝いをしている。	タブレットなどで排泄パターンを把握、誘導している。職員の連携した見守りで失禁予防に取り組んでいる。夜間のみおむつ、ポータブルトイレ使用が2名いる。日中はリハパン、パッド併用で自立した排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を食べて頂いたり、水分摂取を促している。必要に応じて下剤による排便コントロールをし、便意がない場合は腹部マッサージを行ったり運動を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人に合わせて入浴したい時間に入浴している。又、断られた時などは無理強せず時間をおいたりスイッチングを図っている。ひと月に数回しか入浴して頂けない方も複数おり、清潔保持が課題である。	1～2日おきの入浴で、希望に合わせて夕方や毎日の入浴も支援している。車いすから安全に移乗できるユニバーサル浴槽がある。入居前の習慣や面倒などで3日以上入浴しない方が4名おり、対策を期待する。	タイミングや人を変えたり、往診があるなど特別な事を引合いに誘いかけに努めている。入浴を拒む要因について把握し、対応していただきたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室に限らず和室やソファなどその時々心身の状態に合わせて居心地のいい場所で休んで頂けるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用の把握は出来ていない職員もいる。また、服薬を嫌がる方が複数おり、様々な工夫をして服薬支援している。服薬時にお薬が落ちてしまうことが時々あり、確実な服薬が課題である。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員からの押し付けにならないようにご本人の様子を見ながら食事作りや洗濯、掃除などの家事を一緒にしている。又、喫煙により気分転換を図っている方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買物、ドライブ、外食、季節のイベントその他好きな時に散歩に行くなど一緒に出掛けている。また、「家に帰る」と言って外に出たときは安全を確保しながら一緒に歩き、タイミングを見て帰苑している。	ボランティアや家族の協力で塩釜神社初詣や多賀城あやめ祭りなどへ出かけた。馴染みの美容院、妹や甥宅訪問、買い物など個々の希望にそった外出支援をしている。見晴らしの良い高台にある玄関前ベンチも気分転換の場所となっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていたい方もいるが、しまい忘れて妄想につながるため、ご本人にきちんと説明し、今は全員事務所で預かりしている。また、職員全員が同じ説明をするのでご本人はその説明を聞くたび安心している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話して欲しいという要望は多くの入居者からあるので、取り次いでいる。手紙を定期的に送ってくださる方もおり、職員から声を掛けて返信できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った室内装飾を施したり、入居者と一緒に飾り物を作って季節感のある暮らしを提供している。朝はカーテンを開け自然光を取り入れ、夕方にはカーテンを閉め点灯して時間の感覚がずれない工夫をしている。	対面式キッチンの食堂と居間が別で、居間はソファ、テレビ、カラオケがあり寛げる空間となっている。両ユニットは廊下で自由に行き来でき、混乱しないようカーテンやソファの色を別にしてしている。冬季の乾燥に備えて、加湿器の増設が望まれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりその時々気分によって居心地の良い場所がある。時には言い争いになることもあるが、職員は適度に介入し、過ごしやすい環境を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご自宅にあるものを持参するようお願いしている。自分で物を出し入れして様子が変わってしまうと「泥棒が入った」という方もおり、いつもと同じ環境で暮らせるように配慮している。	ベッド、クローゼットが備え付けの約6畳の居室に入居者が使い慣れた家具類が持ち込まれ、動き易いよう配置している。位牌、写真、色紙など思い出のものを飾っている方もいる。掃除を毎朝職員と一緒にやっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札をつけているほか、その方が分かりやすいような工夫をしている。いつも同じトイレへご案内することを繰り返して、ご自分で迷わずにトイレへいけるような支援を行っている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0492600069		
法人名	社会福祉法人 功寿会		
事業所名	グループホーム「七ヶ浜桜の家」	ユニット名	あさひ
所在地	宮城県宮城郡七ヶ浜町東宮浜字要害38-15		
自己評価作成日	平成 30 年 12 月 30 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成31年 1月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1. 介護理念を心に刻み、入居者の思いを最優先に行動できるように心がけ実践している。 2. 町唯一のグループホームとして桜カフェを開催して認知症への理解を深めていただきつつ、自分たちから外へ外向き住民の皆さんとの交流を深めている。 3. 週に1回、入居者一人ひとりに食べたいものを聞き話し合いでメニューを決めて自分たちで買い物している。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>七ヶ浜町で初めてのグループホームとして行政の理解を得て、説明会や個別訪問を重ね、開設した。交流室でのカフェや認知症講座を開催するなど地域との共生を積極的に行っている。理念に基づき毎年の行動指針を定め、自分の思いで自由に暮らせる支援をしている。職員を各ユニットに固定しない勤務とし、全ての入居者との馴染みの関係作りを深め、外出などで柔軟に対応している。地域交流で知り合ったボランティア団体や運営推進会議メンバーの協力で芋煮会や防災訓練を実施し、地域住民が参加している。誕生会、月見会などの季節ごと行事に加え、ボランティアなどの協力を得た日々の楽しみ事実施への工夫をお願いしたい。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム「七ヶ浜桜の家」 )「ユニット名 あさひ 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔・自由・思いやり」の介護理念を毎日の申し送りや唱和し、職員で共有している。	開設時、職員全員で決めた「笑顔、自由、思いやり」の介護理念に基づき、毎年の行動方針を設定している。散歩、買い物など入居者が笑顔で、自分の思いで自由に過ごせるケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外に出かけたときにはこちらから挨拶するように心掛けている。地域の作品展や夏祭りに参加したり、地域の皆さんが芋煮会や観桜会に参加して下さるなどの交流を進めている。	町内会に加入し、敬老会や夏祭り等地域行事に積極的に参加している。各家庭を訪問しホーム主催の芋煮会へ参加依頼し、約60名の参加があった。カフェや日々の散歩など着実に地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一度カフェを開催したり、地域包括からの依頼で認知症サポーター養成講座の講師を務めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催し、活動内容を報告している。委員の皆様から厳しいご意見を頂くこともあるが、違う視点からアドバイスを頂く良い機会となっている。	区長、民生委員、地域包括職員、家族代表、ボランティア会員等が参加し2ヵ月毎開催している。行事に関する意見や避難経路の助言、不審者侵入対策、AED設置などの意見がでている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町健康増進課が地域包括である。月に一度のケアマネ連絡会に出席するほか、入居者の状況や入居申込者の情報共有を進めている。	入居費用の支払方法について相談し、「まもりーぶ」利用につなげたり、入居者状況、空室等について役場と情報交換するなど顔の見える関係づくりを行っている。地域の福祉事業所連絡会議などに参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外は解錠しており、出入りが自由になっている。身体拘束適正化検討委員会は3ヶ月ごとに開催し日ごろのケアの振り返りの時間を設けている。	身体拘束等適正化指針を作成し、適正化委員会を年3回、研修会を年2回定期に開催している。研修では、「今行くよ」「一緒に行きましょう」など断らない言葉かけを話し合い、職員同士で注意し合っている。近隣との連絡体制もできている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回勉強会を実施し理解を深めている。また、不適切ケアに早い段階で気付くように職員同士声を掛け合える風土作りにも力を入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「権利擁護は難しい」という先入観があるためか、なかなか理解が進まないが今後も定期的に学習の機会を設けていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実態調査の段階から、ご家族の話を良く聞き、不安を残さないようにしている。契約締結時はもちろん、入居後にもご理解いただけていないと感じたときは何度でも説明しなおしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートを通じてご意見を頂くほか、面会時や電話連絡時に話を伺うように努力している。また意見や要望を言いやすい関係を構築することと、出来ることはすぐに対応するよう心掛けている。	家族会を年2回開催し行事内容、費用などで意見を聞き反映している。居室の清潔保持の意見があり、職員が入居者と一緒に行うなど対応している。自宅に行きたいなどの要望に職員配置を工夫し応えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議では発言する職員がほとんどいないことが最大の課題と感じている。年2回の面談のほか、事務所や現場で何気なく意見を聞くように配慮している。	毎月の全体会議や年2回の職員の自己評価を基にした面談で、研修、資格希望や運営への意見を聞き、反映している。浴槽へ安全に入れる踏み台や手すり設置、柔らかく調理できる圧力鍋の購入をした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者から代表者への報告のほかに、自己評価や面談を通じて把握して頂いている。また、資格取得後に手当がついたり実務者研修の費用補助があり、向上心を持って働ける環境が整っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として新人職員研修カリキュラムがある。今年度は中堅リーダーの育成に力を入れている。そのほか、外部研修に積極的に参加したり、内部研修を毎月行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町・町内他事業所・医師会・ケアマネ協会など多種多様な研修に参加し情報交換を行っている。また、近くの通所介護事業所に遊びに行くこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族の一方的な訴えに惑わされることなく、その人をしっかりと見つめて入居に向けての安心を確保している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの苦労をねぎらい時間をかけて話しを伺うことで信頼関係を構築している。そして家族の思いとご本人の思いの溝を埋められるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の本当の姿を正確に捉えて、この選択がその人と家族にとってのベストインタレストかどうかを町やケアマネとも連携して検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も入居者も、リビングパートナーとして信頼しながら落ちついた関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力なしにはご本人を支えられない。入居に伴い関係が途切れることがないように、行事に参加していただいたり、毎月近況報告の手紙を郵送している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前利用していた事業所へ毎月マージャンに通っている方、利用していたデイサービスへ踊りを見に行った方、お墓参りに行った方、自宅へ一時帰宅する方、など、出来る限り支援している。	知人などへの年賀状作成の手伝いなど馴染みの人との付き合いが続けられる支援をしている。利用していた通所事業所への踊り見学、麻雀をしに出かけるなど本人が馴染みの行きたい所への同行支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションの苦手な入居者が多く、単独行動が多いが、体調を崩した方がいたときは居室までお見舞いに行き声を掛けるなど、共に暮らす仲間としての関係性が出てきているようである。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも遊びに来て欲しいとお伝えしている。また、ご自宅に伺いお線香をあげさせて頂いたり、運営推進委員の方にはそのまま年度内の委員をお願いしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉で思いや希望を伝える方が多い。全てが実現可能ではないが、日々の暮らしが充実するようになるべく対応していこうと考えている。	不安そうなくさが見られる際にはひとりにはせず寄り添い、思いを聞き出している。家に帰りたいと外に出た場合には制止せず、本人が落ち着くまで職員が同行する等、思いに応えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やこれまで関わってきた方々から多くの情報を集め、バックグラウンドの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が関わらなければ一日中何もしない方がいる一方で、自分から何でもやってくださる方がいてちょうど良いバランスをとることが難しい。9人全員に目が行き届くように努力したい。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人を良く見つけアセスメントし、今必要なプランを作成するように心掛けている。	記録はタブレットとノートを併用して行い、共有している。モニタリングを毎月行い、全体会議で検討し、状態変化がある際は都度プランを見直している。家族要望でかゆみのある方の薬を貼り薬から塗り薬に変えた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は、職員の力量に差がある。気づきなどは、一度では情報共有が進まないので繰り返し伝えることに力を入れている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族では対応が難しいので自宅の鍵を預っている方がいる。ご家族がいない方には手続きの代行を行っている。本人の要望とご家族の状況を勘案してかなり柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前に担当していたケアマに相談し訪問の針治療をお願いしている方がいる。カフェの時は、時間を伝えておくと自然と入居者が集まり地域住民の皆さんの間に座り話を聞いてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族とご本人の希望で、元のかかりつけ医に継続して見て頂いている方が1名で、他の8名は仙台往診クリニックに主治医を変更している。	かかりつけ医には家族が同行し、結果を聞いている。協力医院の往診クリニックを月2回利用している入居者が多い。受診結果はタブレットの医療欄に入力し共有している。毎週、訪問看護師の来訪がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段と違う様子があれば看護師へ報告している。また、訪問看護師や法人内他事業所の看護師へ相談したりアドバイスをもらうこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	この1年間で入退院はなかったが、いつでも医療機関との連携を図れるように、研修などを利用して顔の見える関係作りを進めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居当初からご家族にはいずれ訪れる重度化や終末期について説明を行いご理解いただいている。また、心身の状態の変化に合わせて、ご家族の意向の確認と、不安や心配なことを時間をかけて伺っている。	重度化及び看取り指針を家族に説明している。往診クリニック医師を講師に職員は勉強会を行っている。今年はホームで初めて3名の看取りを行い、家族の意向、医師の判断のもと、それぞれの状況に対応した支援を行った。入居者、職員のケアも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導で、年に1回、心肺蘇生について学んでいる。まだ実践力が身についたとはいえないので今後も継続して学ぶ必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間10回避難訓練を行っている。9月には消防団や地域の皆さんに参加していただき総合防災訓練を実施できた。少しずつではあるがお互いに協力し合える体制を強固なものにしていきたい。	夜間想定を含む避難訓練を入居者も参加し、毎月行っている。目標達成項目の住民参加訓練を地域へ呼びかけ、消防署、消防団5名、地域12名が参加し実施した。運営推進会議で訓練方法の課題が出された。	地域の理解があり、避難訓練に参加する4住民に役割を持ってもらうなど、定着化を期待する。運営推進会議で出された火元を変えた避難訓練の避難路の検討もお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者とのコミュニケーションで言葉遣いは大切な要素なので、尊厳を欠く事のない様に気をつけている。男性職員に排泄や入浴の介助をされることを嫌がる女性入居者がいるので配慮している。	入居者には名前で呼びかけている。おやつなどは押し付けず、選んで貰えるようにしている。失禁が見られた際には「お茶をこぼしたので拭きましょう」などの声がけで対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物に行きたい、食べたいものがある、行きたい所がある、やりたくない、行きたくない、など、ご本人の気持ちを表出できる環境であることと、日常の中で自分で決めて暮らせるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から就寝まで、日課を把握して、時間のルールを守って生活する入居者がいる一方で、夜更かししたり朝寝坊する方もおり、柔軟に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で着る服を選んで、TPOに合うように支援している。訪問カットのときはご自分で希望の髪形を伝えて頂いている。衣類が傷んできたりサイズが合わなくなったらご家族にお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	気分によって出来たり出来なかつたりするものの、多くの入居者が何らかの形で準備と後片付けに関わってくださっている。それぞれが出来ることを自発的にやってくださっている状況である。	献立は本部が作成し、食材の下ごしらえや片付け、食器洗いなどを入居者が行っている。状態に合わせて、おかゆ提供など配慮している。お好み食を週1回行い、食材の買い物など入居者と一緒に出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分量を記録しケアの参考にしている。水分摂取が進まない方が何を好むのかを試したりストローにしてみたり、食べ方が分からなくなってきた方にはさりげなくお手伝いするなどの支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医の訪問診療を利用している。もともと習慣となっていてご自分で歯磨きをしている方がいる一方で、入れ歯すらはずさず頂けない方や、口腔ケアを嫌がる方もいて、コミュニケーションの方法を工夫している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居時は自立している方が多かったが、徐々にトイレ誘導やパット交換の必要の方が増えている。職員の意識が追いついておらず、失禁させてしまうこともしばしばある。	タブレットなどで排泄パターンを把握、誘導している。職員の連携した見守りで失禁予防に取り組んでいる。夜間のみおむつ、ポータブルトイレ使用が2名いる。日中はリハパン、パッド併用で自立した排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にヨーグルトを提供しているほか、水分摂取や運動を促している。しかし便秘傾向にある方の根本的な解決には至っていない。毎朝牛乳を飲んでいる方もいるが、下剤により定期的に排便している状況である。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご自分で決めることができる方にはあらかじめ何時に入浴するか伺っている。就寝前に入浴する方も複数いる。入りたくない時は無理強いないが、一人だけ月に数回しか入浴できていない。	1～2日おきの入浴で、希望に合わせて夕方や毎日の入浴も支援している。車いすから安全に移乗できるユニバーサル浴槽がある。入居前の習慣や面倒などで3日以上入浴しない方が4名おり、対策を期待する。	タイミングや人を変えたり、往診があるなど特別な事を引合いに誘いかけに努めている。入浴を拒む要因について把握し、対応していただきたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	皆さん夜は居室で眠っている。日中は職員が声を掛け、ソファや居室で休んで頂くことが多い。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用に関する理解度はまだ低い。ご自分で服用するとき手のひらから薬を落としてしまうことが度々あるので、しっかりと見守りし手伝える部分は手伝える必要がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	TVでのスポーツ観戦、マージャンや将棋、カラオケ、季節の飾り作り、花の手入れなど、一人ひとりに目を向けて、楽しみや喜びを感じてもらえる工夫をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	最低でも全員が月に1回は外へ出るように行事や外食を行っている。他にも、買い物や職員の用事に同行してもらったり、お墓参りにも対応している。地域のボランティアの皆さんに外出の同行支援もしていただいている。	ボランティアや家族の協力で塩釜神社初詣や多賀城あやめ祭りなどへ出かけた。馴染みの美容院、妹や甥宅訪問、買い物など個々の希望にそった外出支援をしている。見晴らしの良い高台にある玄関前ベンチも気分転換の場所となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	2名が所持していて、1名は買い物の時に全てお札で支払う。もう1名は自分で財産を管理したいが家族が認めていない方なので、金券ショップへ行って自宅から持ってきた切手やはがきなどを現金に代えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話して欲しいという要望には都度対応している。また、手紙やはがきは投函のお手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のあるしつらえを心掛けている。飾り物を一緒に作って季節を感じていただく工夫もしている。カーテンや照明などは混乱しないような配慮をしている。	対面式キッチンの食堂と居間が別で、居間はソファ、テレビ、カラオケがあり寛げる空間となっている。両ユニットは廊下で自由に行き来でき、混乱しないようカーテンやソファの色を別にしてしている。冬季の乾燥に備えて、加湿器の増設が望まれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが居心地の良い場所を見つけているようである。隣のユニットへ行ったり、他者の居室へお邪魔しておしゃべりすることも自然発生している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのあるものをご自宅から持ってくるようにご家族にお願いしている。日々の整理整頓は居室担当が中心となり行っている。	ベッド、クローゼットが備え付けの約6畳の居室に入居者が使い慣れた家具類が持ち込まれ、動き易いよう配置している。位牌、写真、色紙など思い出のものを飾っている方もいる。掃除を毎朝職員と一緒にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の下着を風呂場で洗ったり、洗濯物があれば干したりたたんだり、TVがついていれば自然とそちらに足が向いたり、外に行きたければ玄関に向かうなど、自分で行動できることを大切にしている。		